

学校名 熊谷市立荒川中学校
所在地 熊谷市月見町2丁目174番地
電話 048-521-0213

1 本校の概要

本校は埼玉県北部に位置し、南に荒川とその土手、東に老舗デパート八木橋やイオン熊谷などの商業施設があり、自然的にも文化的にも恵まれた地域にある。開校71周年を迎え、「わたしが誇るまち 熊谷に学ぶ 日本一の荒中生」の学校教育目標の下、327名の生徒が日々「本気で学び、本気で磨き、本気で鍛え」ている。親子3代で荒川中学校卒業生、という家庭も少なくなく、学校に対して協力的で、地域ぐるみで生徒を育てようとする風土もある。経済的にも安定している家庭が多く、生徒も素直で穏やかである。

2 本校の実践

(1) 実践の視点1

- ・学級担任による学級文庫「ブックトーク」

(2) 実践の概要

学級担任が、学級文庫の本で「ブックトーク」をしている。毎日顔を合わせる学級担任から紹介される本には、格別な魅力があるのではないかと考える。担任によっては、自身の所有する本を教室に置き、生徒が手に取れるようにしている。また、国語科や社会科、理科の教科担当も、多くの本を学級文庫に加えて紹介した。



【担任による紹介】

【社会科教諭の学級文庫】

(3) 実践の視点2

- ・図書委員会による「ブックトーク」

(4) 実践の概要

委員会活動の一環として、図書室の開室当番、朝読の運営、学級文庫の管理、年に1度の図書集会の取組がある。それ以外に、給食時間中に放送で、1週間に1クラスずつ（図書委員は2～3名）、学校にある図書（図書室の本）の紹介を計画した。

また、学級担任が行う「学級文庫ブックトーク」に便乗し、図書委員も学級文庫の紹介をした。その取組を行った6月第3週からの1週間を「ブックトークウィーク」と名づけた。）



【給食時の図書委員による放送】



【放送後昼休み図書室】

3 成果と今後の課題

(1) 成果

本格的なブックトークをするにはそれなりに読書経験を積む必要があったり、準備に時間がかかったりする。今回は、広義の意味での「ブックトーク」を実践した。「学級担任による学級文庫ブックトーク」では、全クラスの担任が取り組むことで、生徒の読書の習慣を身に付けることができた。今後も、春や秋の読書週間などのタイミングで、1年に1度は全職員が取り組むようにしていきたい。

また、これまでの読書指導というと、主に夏休み前の読書感想文コンクールに向け、宿題を出す際に本を紹介するくらいであったが、こういった取組によって、読書活動の指導の新しい可能性を知ることができた。

(2) 課題

図書室や学級文庫の選書について、今後も検討が必要だと感じている。図書委員が選んだ本については、事前の指導が必要である。学級文庫の何冊かは、ハードルが低くなくてはいけない、興味があまりない生徒にも手にとってもらうからには、ある程度のきれいさも求められる。図書室の本においても中学生にとって魅力ある本の収集を心がけていきたい。

(3) 終わりに

自分が今、何を読み、何を感じ、次は何を手にしたのか。心の中に羅針盤をもたせ、本の世界を旅していける力と地図を授けるのが、中学校での読書活動の指導なのではないかと考えている。